

第4回臨時総会報告.....	2~3	世界の学校⑧.....	10
収支予算書.....	4~6	産育休中教職員セミナー.....	11
代議員選挙公示.....	7	アフタヌーンセミナー.....	11
会員アンケート報告.....	8	教師塾A.....	11
災害見舞金ニックネーム決定.....	9	防災教育セミナー報告.....	12
職員録入力にかかわるお願い.....	9	100年館の絵.....	12
旅費改定について.....	9		

教師力講座「極意」伝承道場

「極意」伝承道場は、教科指導や学級経営、生徒指導、特別支援教育、ICTの活用、不登校生への支援など15の道場を開講予定です。優れた実践を積み重ねている指導者から、貪欲に学んでみませんか。“道場”は、受講者同士も日頃感じていることや、悩んでいることを話し合える場となっています。



令和6年度受講者感想

受講者の学びたい内容など、希望を聞いてくださり、一つ一つ丁寧に教えていただきました。他校の先生方と情報共有する場にもなり、中学校や盲学校の様子も知れて大変有意義な時間となりました。

一年後には、
一歩高まった自分を
発見できます！



自らの世界を広げようとしている先生の姿に触れ、 子どもは自分も成長しようとする

令和6年度第4回臨時総会を2月4日（火）に行った。代議員数50名中45名の出席者により開催し、5つの議案が全て承認された。意見交換では、「年度末から年度初めの信濃教育会会員増への取組」をテーマに、各学校や郡市で何をどのようにしていくことがよいかを話し合った。以下臨時総会の概略を報告する。

【大日方会長あいさつ】

- 上田薫は著書『信州教育論』の中で、信州の教師の課題の一つとして、「井の中の蛙になっているのではないか」と指摘している。言うまでもなく、日々の実践、自己研鑽、仲間との切磋琢磨等に力を注ぐあまり、自己満足に陥ることを危惧してのことだった。
- 社会の変化が激しく、価値観が多様化する今日、「不易流行」を踏まえつつ広く外に目を向け、謙虚に他の取組や実践の良さに学ぶことは必要だと思う。若い頃、県外の名だたる学校の公開研究会に参加し、時の先進的な実践に触れ、刺激と憧れを抱き帰って来た。
- 第7回アフタヌーンセミナーでは、教育研究所研究員が、今年度県外視察をした学校の教育実践、感じ取った校風等を発表した。最後には、特任所員の奈須正裕先生（上智大学教授）に、自身の経験を踏まえまとめをしていただいた。
- 奈須先生のお話の概要は次のようなものだった。

「県外を視察することで、いろいろなインスピレーションを得ることができ、その後の取組につながる。いろいろなものを見てくることは大事。

自分が若い時には、長野県の学校を見て学んだ。

当時、他県の若い先生方は皆信州に来て勉強した。逆に、長野の先生方も県外の違うものを見ることで、信州教育の良さ、信州教育の特色も見えてくると思う。今は、様々な事情があり、なかなか県外に出られなくなっている。旅費の問題もあるが、自腹で行くように考えた方がいい。自分の成長のためには、時として自分の給与を使うことも必要ではないか。

子どもたちにとっての最大の教材は、教師の背中である。自らの世界を広げようとしている先生の姿に触れ、子どもは自分も成長しようとする。研修は、具体的に何かを身に付けようとするのではなく、生き方を

身に付けることである。子どもの前に立つからには、厳しいかもしれないが大事なこととして受け止めてほしい。今は、オンラインもある。アンテナを高くして情報を集め、仲間と学び合ってほしい」

- 信濃教育会では、研修を希望する会員を支援するために短期視察研修補助事業を行っている。一人でも多くの会員に活用願いたい。

【議 事】

- (1) 第1号議案「公益社団法人信濃教育会定款変更（案）の議決」に関する件
 - (2) 第2号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会事業計画（案）の承認」に関する件
- 特別支援教育に視点をあてた研修や補助事業を新規に計画していただき、大変ありがたい。特別支援学校に来ると、教育会を退会するケースがあるが、教育会のおかげで講師をお願いした校内研修ができたり、視察に出かけたりすることができるよさがある。特別支援学校でも教育会のよさを伝えていきたい。
 - 教師塾Sなどリフレッシュできる研修が魅力的。「楽しそう、参加してみよう」と感じる内容だ。地元のことは知っているようで知らないという面もあるので、若手にも声をかけたい。
 - 本年度、全県研究大会の会場校となった。共同研究者の岩川先生に入っていただき、授業者が満足のいく取組ができて、子どもたちも目に見えて成長した。近隣の中学校や小学校が、午後の授業をカットして職員研修日として参加して学び合えたこともよかった。
 - 令和7年度全県研究大会、学び創造研究会に手を挙げた。全県研究大会で学んだことを生かしてICT活用も含めた授業改善に努めてきた初任者が、今度は自分が研究し成果を発信したいという願いか

らの立候補だ。意欲が高まり、学びが広がる貴重な機会になっている。

- (3) 第3号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会収支予算(案)の承認」に関する件
- (4) 第4号議案「令和7年度公益社団法人信濃教育会資金調達及び設備投資の見込み(案)の承認」に関する件
- (5) 第5号議案「保有債券償還に伴う新規債権購入の承認」に関する件

【報告・連絡】

- (1) 令和6年度「極意」伝承道場の受講証の配付
- (2) 令和7年度年間行事予定
- (3) 会報3月号掲載の代議員選挙公示について
- (4) 災害見舞金のニックネームについて
- (5) 令和7年度雑誌『信濃教育』の発刊について
- (6) 教育実践誌『ふるさとの大地』発刊について
- (7) 『秘伝「信州教育の極意」』の購入について

【情報交換】

テーマ「年度末から年度初めの信濃教育会会員増への取組」について

- 令和6年度に私どもの郡市では、会員が10名増となった。分析してみると、大規模校で一人一人に声かけをしたことが大きかった。小規模校も含めて地道な声かけがやはり大事だと思う。来年度は統合により、中高飯水教育会となる。オンラインも含めて会議を重ねていて、現会員数を足し算で合わせた数を減らさないことを目指している。そのために、新教育会スタートのチラシを作成中で、速やかに配布し郡市教育会と信濃教育会への入会を呼びかけていく。
- 入会に向けて、災害見舞金や魅力的な研修内容など、教育会のよさをアピールしていくことが一番だと考える。校外に出て自ら学ぶという意識の薄かった初任者に、校外研修の後押しをした。研修後、また学びたいと意欲を高め、その後は信濃教育会の委員も引き受けて取り組んだ教員がいる。その先生と話したところ、「1年間を振り返った時、信教の委員会が一番学びになった」と語った。全県から集まる先生方と出会い様々な話ができることがよかったようだ。このような姿を広げて会員増につなげたい。
- 本年度は、郡市教育会で「あり方委員会」を設けて協議している。集約したアンケートに、「管理職に言われると断りにくい」といった声があった。人とつながり、他校の先生ともつながれるよさが教育会にはある。自分自身も教育会で育てていただいたという思いがある。教務主任等の中堅も含めて、人と人とのつな

がりを大切にして入会の働きかけをしていきたい。

- 教員養成の立場にいるが、学生を全県に送り出す際には、「長野県の教員になったら信濃教育会に入ろう」と声をかけたい。教育会に入ることでのいろいろなよさがある。今の学生は、横のつながりは強いが、縦の関係を築くことが苦手ではないかと感じている。教育会に入ること、経験を積んだ先生方と出会えることが心強いことと思う。

【大日方会長閉会のあいさつ】

- それぞれの立場から貴重なご意見をいただき、感謝。今後の事業、取組につなげていきたい。
- 物ごとの名称というのは改めて大事だと思う。「研修」という言葉のイメージはいかかが。私は、遠くに出かけて、人との出会いが得られることから、ワクワク感をもっていった。今の若い方の中には、重いイメージややらされ感を抱く方もいると聞く。
- 「全県研究大会」についても、負担を強いられるといったイメージをもつ方がいることから、名称変更という意見をいただき検討してきた。
協議を重ね、「学び創造研究会」とさせていただくこととなった。「創造」という言葉が好きだ。創る、生み出すことには夢やロマンがある。研究校や授業者には、自主性・独自性を大いに発揮していただきたい。「学び創造研究会」のイメージが、会員の皆様とともにプラスのものとなるようにしていきたい。
- 日本連合教育会会報(第133号)を配布した。信濃教育会からは、長野市立松ヶ丘小学校の寺島努校長先生の「語るうことの大切さ」が掲載されているのでお読みいただきたい。
- 会報の1ページには、学習院大学の須田将司氏の文章が掲載されている。文中に、信濃教育会教育研究所の所長を務めた稲垣忠彦先生の「過去から引き継がれてきた教育会の精神の糸を切ってはならない」の言葉が紹介されている。信濃教育会編で昨年12月に発刊した『秘伝「信州教育の極意」』の内容は、私ども信濃教育会の精神の糸と言え。若い人にも勧めていただき、次の代につないでいただきたいと切に願う。
- 本日はお疲れさまでした。



令和7年度
公益社団法人 信濃教育会 収支予算書

令和7年1月21日 理事会提案 令和7年1月21日 決議
令和7年2月4日 臨時総会提案 令和7年2月4日 承認

公益目的事業収支予算書
(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	310	350	△40
(2) 受取会費	141,637,500	146,170,240	△4,532,740
(3) 事業収益	31,259,500	38,284,500	△7,025,000
1 購読収益	13,143,000	13,368,000	△225,000
2 受取印税	17,400,000	24,400,000	△7,000,000
3 講座受講料	466,500	366,500	100,000
4 会館使用料	250,000	150,000	100,000
(4) 受取負担金	50,000	0	50,000
(5) 受取寄付金	0	0	0
(6) 受取補助金	4,214,580	5,959,380	△1,744,800
(7) 雑収益	1,228,860	728,900	499,960
経常収益合計(A)	178,390,750	191,143,370	△12,752,620
2 経常費用の部			
【公益目的事業費】	161,341,351	181,843,894	△20,502,543
(1) 職能研修事業費	31,743,000	35,754,800	△4,011,800
1 研究調査費	3,953,000	5,916,800	△1,963,800
1 委員会費	1,242,000	2,500,000	△1,258,000
2 旅費交通費	303,000	1,015,000	△712,000
3 通信運搬費	453,000	250,000	203,000
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	68,000	128,000	△60,000
6 印刷製本費	1,234,000	1,000,000	234,000
7 賃借料	100,000	0	100,000
8 諸謝金	463,000	839,000	△376,000
9 雑費	90,000	184,800	△94,800
2 福祉教育資料研究調査費	0	346,000	△346,000
1 委員会費	0	260,000	△260,000
2 旅費交通費	0	24,000	△24,000
3 通信運搬費	0	3,000	△3,000
4 支払助成金	0	40,000	△40,000
5 支払寄付金	0	0	0
6 雑費	0	19,000	△19,000
3 教育研究所運営費	3,456,000	4,337,000	△881,000
1 委員会費	120,000	230,000	△110,000
2 旅費交通費	1,770,000	2,119,000	△349,000
3 通信運搬費	70,000	70,000	0
4 消耗什器備品費	0	0	0
5 消耗品費	286,000	266,000	20,000
6 印刷製本費	281,000	500,000	△219,000
7 諸謝金	770,000	992,000	△222,000
8 支払負担金	40,000	40,000	0
9 雑費	119,000	120,000	△1,000

4 講習講演会費	3,367,000	4,940,000	△1,573,000
1 旅費交通費	975,000	1,800,000	△825,000
2 通信運搬費	30,000	53,000	△23,000
3 消耗品費	133,000	176,000	△43,000
4 印刷製本費	0	70,000	△70,000
5 賃借料	0	170,000	△170,000
6 諸謝金	560,000	725,000	△165,000
7 支払助成金	1,210,000	1,280,000	△70,000
8 雑費	459,000	666,000	△207,000
5 教育研究大会費	8,990,000	9,830,000	△840,000
1 旅費交通費	2,010,000	2,390,000	△380,000
2 通信運搬費	255,000	205,000	50,000
3 消耗品費	55,000	105,000	△50,000
4 印刷製本費	130,000	130,000	0
5 賃借料	100,000	300,000	△200,000
6 諸謝金	2,335,000	2,300,000	35,000
7 支払負担金	80,000	80,000	0
8 支払助成金	3,900,000	3,800,000	100,000
9 委託費	0	300,000	△300,000
10 雑費	125,000	220,000	△95,000
6 視察派遣助成費	3,916,000	1,945,000	1,971,000
1 委員会費	300,000	200,000	100,000
2 旅費交通費	1,650,000	500,000	1,150,000
3 通信運搬費	23,000	33,000	△10,000
4 支払負担金	330,000	330,000	0
5 支払助成金	1,563,000	862,000	701,000
6 雑費	50,000	20,000	30,000
7 教育会研修助成費	670,000	1,000,000	△330,000
1 支払助成金	670,000	1,000,000	△330,000
8 応募型研修助成費	7,391,000	7,440,000	△49,000
1 旅費交通費	145,000	235,000	△90,000
2 通信運搬費	20,000	50,000	△30,000
3 消耗品費	60,000	80,000	△20,000
4 印刷製本費	30,000	0	30,000
5 諸謝金	56,000	56,000	0
6 支払助成金	7,000,000	7,000,000	0
7 雑費	80,000	19,000	61,000
(2) 教育図書研究調査事業費	23,043,000	26,995,000	△3,952,000
1 教科用図書研究委員会費	5,489,000	8,337,000	△2,848,000
1 委員会費	3,478,000	5,200,000	△1,722,000
2 旅費交通費	570,000	750,000	△180,000
3 通信運搬費	43,000	99,000	△56,000
4 消耗什器備品費	100,000	100,000	0
5 消耗品費	770,000	1,330,000	△560,000
6 諸謝金	244,000	314,000	△70,000
7 雑費	284,000	544,000	△260,000
2 学術図書研究委員会費	17,554,000	18,658,000	△1,104,000
1 委員会費	230,000	260,000	△30,000
2 旅費交通費	100,000	100,000	0
3 通信運搬費	2,500,000	2,500,000	0
4 消耗什器備品費	0	0	0

5	消耗品費	60,000	80,000	△20,000
6	印刷製本費	11,720,000	12,609,000	△889,000
7	諸謝金	1,570,000	1,626,000	△56,000
8	期首商品棚卸高	14,500,000	14,400,000	100,000
9	期末商品棚卸高	△14,600,000	△14,500,000	△100,000
10	雑費	1,474,000	1,583,000	△109,000
(3)	生涯学習振興事業費	3,987,000	4,420,000	△433,000
1	教育博物館運営費	1,717,000	2,150,000	△433,000
1	委員会費	185,000	410,000	△225,000
2	旅費交通費	438,000	574,000	△136,000
3	通信運搬費	119,000	131,000	△12,000
4	消耗品費	130,000	170,000	△40,000
5	印刷製本費	435,000	435,000	0
6	諸謝金	80,000	100,000	△20,000
7	支払助成金	301,000	301,000	0
8	雑費	29,000	29,000	0
2	生涯学習推進支援事業費	2,270,000	2,270,000	0
1	委員会費	30,000	30,000	0
2	旅費交通費	120,000	120,000	0
3	通信運搬費	140,000	140,000	0
4	消耗什器備品費	150,000	150,000	0
5	消耗品費	200,000	200,000	0
6	修繕費	150,000	150,000	0
7	光熱水料費	470,000	470,000	0
8	保険料	200,000	200,000	0
9	諸謝金	100,000	100,000	0
10	委託費	570,000	570,000	0
11	雑費	140,000	140,000	0
(4)	事業共通費	102,568,351	114,674,094	△12,105,743
1	役員報酬	4,729,950	5,346,400	△616,450
2	給料手当	56,435,200	63,777,250	△7,342,050
3	退職給付費用	2,616,606	2,660,900	△44,294
4	福利厚生費	9,201,760	10,773,400	△1,571,640
5	会議費	375,700	454,300	△78,600
6	委員会費	0	154,584	△154,584
7	旅費交通費	462,400	649,000	△186,600
8	渉外応接費	231,200	259,600	△28,400
9	通信運搬費	574,000	450,100	123,900
10	減価償却費	8,615,415	8,866,511	△251,096
11	消耗什器備品費	0	0	0
12	消耗品費	1,148,000	1,607,500	△459,500
13	修繕費	172,200	192,900	△20,700
14	印刷製本費	462,400	584,100	△121,700
15	光熱水料諸費	8,610,000	9,261,129	△651,129
16	賃借料	3,468,000	3,894,000	△426,000
17	保険料	217,320	217,320	0
18	租税公課	2,994,000	2,994,000	0
19	支払負担金	1,849,600	2,076,800	△227,200
20	雑費	404,600	454,300	△49,700
【管理費】		39,065,706	43,516,285	△4,450,579
1	会議費	728,700	956,800	△228,100
1	総会費	500,000	700,000	△200,000
2	理事会費	80,000	80,000	0
3	監事会費	20,000	20,000	0

4	共通会議費	128,700	156,800	△28,100
2	会報発行費	2,695,000	3,181,000	△486,000
1	旅費交通費	40,000	60,000	△20,000
2	通信運搬費	300,000	770,000	△470,000
3	消耗品費	16,000	16,000	0
4	印刷製本費	2,300,000	2,300,000	0
5	諸謝金	34,000	30,000	4,000
6	雑費	5,000	5,000	0
3	事務費	35,642,006	39,378,485	△3,736,479
1	役員報酬	3,630,100	4,543,280	△913,180
2	給料手当	17,296,000	19,336,350	△2,040,350
3	退職給付費用	896,346	918,400	△22,054
4	福利厚生費	3,152,160	3,718,400	△566,240
5	旅費交通費	508,400	274,000	234,400
6	渉外応接費	179,200	289,600	△110,400
7	通信運搬費	249,000	208,900	40,100
8	減価償却費	1,653,980	1,709,754	△55,774
9	消耗什器備品費	0	0	0
10	消耗品費	698,000	867,500	△169,500
11	修繕費	89,700	118,100	△28,400
12	印刷製本費	308,400	501,600	△193,200
13	光熱水料諸費	2,985,000	3,269,481	△284,481
14	賃借料	1,188,000	1,344,000	△156,000
15	保険料	55,520	55,520	0
16	支払負担金	663,600	766,800	△103,200
17	委託費	700,000	500,000	200,000
18	雑費	1,388,600	956,800	431,800
經常費用合計 (B)		200,407,057	225,360,179	△24,953,122
当期經常増減額 (A)-(B)		△22,016,307	△34,216,809	12,200,502
他会計振替額		2,186,501		
当期一般正味財産増減額		△19,829,806		
一般正味財産期首残高		291,996,014		
一般正味財産期末残高		272,166,208		
II 正味財産期末残高		272,166,208		

出版事業収支予算書

(令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 經常収益の部			
(1) 特定資産運用益	16	11	5
(2) 事業収益	17,500,000	14,940,000	2,560,000
1 購読収益	14,800,000	12,240,000	2,560,000
2 受取印税	2,700,000	2,700,000	0
(3) 雑収益	1,470	1,100	370
經常収益合計 (A)	17,501,486	14,941,111	2,560,375
2 經常費用の部			
1 役員報酬	435,740	239,760	195,980
2 給料手当	3,816,820	2,951,080	865,740
3 退職給付費用	181,080	114,800	66,280
4 福利厚生費	636,800	464,800	172,000
5 会議費	26,000	26,216	△216
6 委員会費	170,000	279,707	△109,707

7 旅費交通費	32,000	28,000	4,000
8 渉外応接費	16,000	11,200	4,800
9 通信運搬費	751,000	856,600	△105,600
10 減価償却費	5,349,340	6,212,677	△863,337
11 消耗什器備品費	0	0	0
12 消耗品費	101,000	150,000	△49,000
13 修繕費	12,300	8,400	3,900
14 印刷製本費	5,744,000	5,761,400	△17,400
15 光熱水料諸費	615,000	403,284	211,716
16 賃借料	240,000	218,000	22,000
17 保険料	6,640	6,640	0
18 諸謝金	0	0	0
19 租税公課	1,060,000	1,060,000	0
20 支払負担金	128,000	89,600	38,400
21 委託費	1,707,000	1,500,000	207,000
22 雑費	308,000	284,600	23,400
経常費用合計 (B)	21,336,720	20,666,764	669,956
当期経常増減額 (A) - (B)	△3,835,234	△5,725,653	1,890,419
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	△3,835,234		
法人税・住民税及び事業税	40,780		
当期一般正味財産増減額	△3,876,014		
一般正味財産期首残高	29,503,335		
一般正味財産期末残高	25,627,321		
II 正味財産期末残高	25,627,321		

15 賃借料	168,000	186,000	△18,000
16 保険料	152,560	152,560	0
17 租税公課	2,146,000	2,146,000	0
18 支払負担金	89,600	99,200	△9,600
19 雑費	769,600	321,700	447,900
経常費用合計 (B)	15,615,934	15,834,406	△218,472
当期経常増減額 (A) - (B)	1,643,977	1,385,506	258,471
他会計振替額	0		
税引前当期一般正味財産増減額	1,643,977		
法人税・住民税及び事業税	40,220		
当期一般正味財産増減額	1,603,757		
一般正味財産期首残高	183,800,706		
一般正味財産期末残高	185,404,463		
II 正味財産期末残高	185,404,463		

災害見舞金事業収支予算書 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	42,600,063	42,000,027	600,036
(2) 受取会費	2,000,000	3,000,000	△1,000,000
経常収益合計 (A)	44,600,063	45,000,027	△399,964
2 経常費用の部			
1 役員報酬	3,033,250	1,408,800	1,624,450
2 給料手当	13,357,250	5,891,130	7,466,120
3 退職給付費用	706,212	278,800	427,412
4 福利厚生費	2,483,520	1,128,800	1,354,720
5 会議費	101,400	77,600	23,800
6 旅費交通費	124,800	68,000	56,800
7 渉外応接費	62,400	27,200	35,200
8 通信運搬費	198,000	69,000	129,000
9 減価償却費	282,985	290,168	△7,183
10 消耗什器備品費	0	0	0
11 消耗品費	316,000	175,000	141,000
12 修繕費	47,400	21,000	26,400
13 印刷製本費	124,800	111,200	13,600
14 光熱水料諸費	2,370,000	1,008,210	1,361,790
15 賃借料	936,000	408,000	528,000
16 保険料	9,960	9,960	0
17 支払見舞金	10,000,000	15,000,000	△5,000,000
1 死亡・障害見舞金	6,000,000	9,000,000	△3,000,000
2 入院・通院見舞金	2,000,000	3,000,000	△1,000,000
3 自然災害見舞金	2,000,000	3,000,000	△1,000,000
18 支払負担金	499,200	217,600	281,600
19 雑費	759,200	697,600	61,600
経常費用合計 (B)	35,412,377	26,888,068	8,524,309
当期経常増減額 (A) - (B)	9,187,686	18,111,959	△8,924,273
他会計振替額	△2,186,501		
当期一般正味財産増減額	7,001,185		
一般正味財産期首残高	1,307,177,189		
一般正味財産期末残高	1,314,178,374		
II 正味財産期末残高	1,314,178,374		

不動産貸与事業収支予算書 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

(単位=円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常収益の部			
(1) 特定資産運用益	1,311	1,312	△1
(2) 事業収益	14,158,600	14,158,600	0
1 貸家賃貸料	9,814,600	9,814,600	0
2 貸地賃貸料	4,344,000	4,344,000	0
(3) 受取負担金	3,000,000	3,000,000	0
(4) 雑収益	100,000	60,000	40,000
経常収益合計 (A)	17,259,911	17,219,912	39,999
2 経常費用の部			
1 役員報酬	317,960	449,760	△131,800
2 給料手当	2,947,730	3,238,950	△291,220
3 退職給付費用	126,756	127,100	△344
4 福利厚生費	445,760	514,600	△68,840
5 会議費	18,200	21,700	△3,500
6 旅費交通費	22,400	31,000	△8,600
7 渉外応接費	11,200	12,400	△1,200
8 通信運搬費	28,000	22,400	5,600
9 減価償却費	4,655,368	4,737,640	△82,272
10 消耗什器備品費	0	0	0
11 消耗品費	56,000	75,000	△19,000
12 修繕費	158,400	159,600	△1,200
13 印刷製本費	22,400	27,900	△5,500
14 光熱水料諸費	3,480,000	3,510,896	△30,896

公益社団法人 信濃教育会

令和7年度 代議員（含補欠員）選挙公示

令和7年3月15日

公益社団法人 信濃教育会 代議員選挙管理委員会

定款に則り、令和7年度の代議員選挙を下記のように実施いたします。

記

- 1 本会の正会員であればどなたでも立候補できます。4月1日までに各教育会選出の信濃教育会代議員選挙管理委員会委員（信濃教育会常任委員）までお申し出ください。

令和7年度信濃教育会常任委員が選出されるまでは令和6年度の常任委員が信濃教育会代議員選挙管理委員会委員の責務と権限を有していますが、4月1日以降、申し出先が不明確な場合は各教育会事務局へお申し出ください。

- 2 候補者の受付と公示、投票及び開票の管理・運営は、各教育会の信濃教育会代議員選挙管理委員会委員（信濃教育会常任委員）が行います。

- 3 選挙結果は会報に掲載します。

以上

会員アンケート報告

お忙しい中、アンケートにご協力いただき誠にありがとうございました。本年度は小中特校あわせて123校、1440名の方から回答をいただきました（回答率78.9%）。結果の一部をお知らせするとともに、次年度以降の事業に生かして参ります。

■ 今後、信濃教育会で必要と考える研究調査活動について

- ・教育課程研究協議会が変わろうとしている中、ますます授業を見る機会が減っていく。子どもの学びに視点を当てた研究をしてほしい。例) 個別最適な学び、自由進度学習、特別支援教育等。
- ・長野県ならではの自然体験行事のあり方。
- ・信州教育にかかわる研究調査。特に、戦後の本県の教育史をまとめることは、「今だけ、ここだけ」の教育づくりに陥らないために必要。
- ・ICT機器の利活用による学級事務等校務の合理化（DX化）に関する研究。

■ 講習・講座

- ・リラックスできる講座は興味深い。長野県の良さを感じる研修があることはとても良い。
- ・今年度は参加できなかったが、どれも興味深く、気軽に参加してみたいと思う内容だったと思う。
- ・広い長野県なのでその地域でしかできない研修や講座を大切にしていきたい。

■ 自主的校内研修補助事業、短期視察研修補助事業、学び続ける教師への助成事業について

- ・大変ありがたい、今後も継続をお願いしたい。(多数)
- ・教師の研修を支えていく非常に有効な事業だと感じている。
- ・素晴らしい事業だと思うが、現場で知らない人が多いので、管理職からそのことについて紹介をしたり、直接声をかけたりすることが必要。

■ 全県研究大会について

- ・「やりたい」から出発する授業研究のあり方が素晴らしいと思う。
- ・「手を挙げた人が授業を公開する」というところは大賛成。これからの時代は「自ら学び続ける教師」であり続けることが大切だと強く思う。
- ・「挙手方式」になり、意欲のある先生方の活躍の場になることは良いと思う。一方で各校の事情により、なかなか手を挙げにくいこともあるようにも思う。

(注) 令和7年度から「全県研究大会」の名称が「学び創造研究会」となります。

■ 信濃教育会のあり方について

- ・会員が減ってきている昨今、教育会の意義をしっかりと伝えていくことが大事だと思う。
- ・時代に合わせて様々な工夫をしていただいていることに感謝したい。諸事業に積極的に参加することで「学び」を深め、学校を越えた仲間とつながり、教師としての力量を伸ばしたい。
- ・リラックス講座がとても魅力的なものになったように、若手の意見を取り入れる機会が増えると、これからのつながるのではと思う。中高年の私たちでは「むかしは・・・」と言ってしまいがちなので。

※会員の声は元の思いを変えないように一部編集して掲載しています。

● 《アンケートを受けて》 ●

- 全県研究大会が手挙げ制等、運営方法を大きく変えてから3年。会員の理解は進んできているが、まだ周知が不足している面もあり、先生方の「授業づくりの研究をしたい」「学びたい」を支援できるよう運営推進して参ります。
- 地域の特色を学び、リラックスもできる体験型の講習・講座に魅力を感じる会員が多数。開催地も、会員が参加しやすいように、東北信・中南信それぞれで開催して参ります。講習・講座以外の事業開催地も考慮して参ります。
- 応募型研修助成事業や災害見舞金事業等、広く会員に利用していただくためにさらに周知を図って参ります。
- 時代の変化に合わせて改革を進める中で、改めて教育会の意義や必要性を考え合うとともに、事業の効率的な運営や会員の負担軽減、さらには事業の重点化を図りながら、会員にとって魅力ある信濃教育会となるよう努めて参ります。

災害見舞金ニックネームが
決定しました

「信教災害サポート」(通称: SSS)

スリーエス

災害見舞金ネーミング選考委員の皆さんにご尽力いただいたニックネーム企画。会員の皆様にはニックネームの応募や投票にご協力いただきました。昨年12月末で投票を締め切り最終候補作品の中から得票の多い順に採用作品と次点作品を以下のよう

- 採用 信教災害サポート (通称: SSS) 白馬南小学校 川尻年輝 先生
□ 次点 SOS (S 信教 O お助け S 制度) 屋代中学校 柳澤正寿 先生

災害見舞金ネーミング選考委員会の池戸奈都美です。私たちネーミング選考委員会は、災害見舞金の普及と認知度を向上させるために、新しいニックネームを募集してまいりました。この度、「SSS (信教災害サポート)」というニックネームが決定いたしました。この名前は、皆様の温かいご支援とご協力のおかげで生まれました。名前を応募してくださった方々、そして投票にご参加いただいた方々に心より感謝申し上げます。今回の決定により、災害見舞金の認知度が一層高まり、多くの方々にご利用いただけることを願っております。今後も SSS を活用し、共に助け合いながら進んでまいりましょう。どうぞよろしくお願

い申し上げます。
(委員長 池田小学校 池戸奈都美)

<川尻先生にインタビュー>

Q 受賞のご感想は?

A まさか!という感じで大変驚きました。

Q ニックネームに込めた願いは?

A 誰もが覚えやすくシンプルに。短い3音「信教」「災害」「サポート」でつくり頭文字をSでそろえることで韻を踏みリズム感が出せればいいなと思いました。また、SにはS級、Sランク、S評価など最上級を表すことがたくさんあって通称をSSSとすることで先生方への強力な助っ人としての意味や「すぐに」「知らせて」「支援を受けよう」とする意味も込めました。

Q 信濃教育会に期待することは?

A 年々現場は厳しい状況を感じる中で信教は先生方の後押しをしてくれる、力になる、活力につながるような企画を考えていただいていると感じています。これからも大いに期待しています。



▲ 白馬南小に表彰に伺いました

「長野県学事関係職員録」にかかわるお願い

令和7年度原稿入力・職員録購入の申込みにかかわる日程は下記のとおりです。ご確認ください、作業を進めていただきますようお願いいたします。

原稿入力

3月6日[木] 原稿入力にかかわる文書、申込書を各学校へ送付

3月25日[火] ユーザコード (ID) をメールで各学校へ送信 入力開始

4月9日[水] 午前9時 入力締め切り

4月18日[金] 午前8時30分 確認・修正開始 (修正入力が可能になります。)

●修正の有無にかかわらず、必ず画面を開いて確認してください。確認後は完了ボタンを押してください。

4月22日[火] 昼12時 確認・修正締め切り

購入申込み 締め切り

4月17日[木] 小・中・義務教育・特別支援学校 → 郡市教育会へ

※高校・大学・各種学校、他 → 4月21日(月)までに信濃教育会へ

問い合わせ

[原稿入力について]

雑誌図書編集部

電話 026-232-6994

[購入申込みについて]

総務・会計部

電話 026-232-2470

◆ 旅費支給規程改定のお知らせ

財務改善を図るため、実態を基に再検討し、遠距離移動に伴う負担軽減を考慮した上で、規程改定をさせていただきました。ご理解・ご協力の程、よろしくお願いたします。



海と緑にかこまれた街 「コタキナバル」



コタキナバル日本人学校 大原 穂乃花

コタキナバル日本人学校への赴任が決まったことを知らされたとき、「…コタキナバル?」と思ったことを今でも覚えています。渡航前は期待と不安が入り混じった気持ちでいっぱいでしたが、実際にこの場所を訪れ、豊かな自然や人の温かさにふれて、コタキナバルがどんどん好きになっていきました。

コタキナバルは、ボルネオ島北部にあるマレーシア、サバ州の州都です。世界有数のダイビングスポットや世界自然遺産のキナバル山等、美しい自然に囲まれている場所です。ここでは主にマレー系、中華系、インド系の人々が暮らしているため、様々な文化を味わうことができます。聞こえてくる言葉も、英語、マレー語、中国語と様々です。この他民族性により、多くの宗教的行事（イスラム教のラマダン〈断食〉やヒンドゥー教のディパバリ〈ヒンドゥー教暦新年のお祝い〉など）が行われています。その時々町中が飾り付けられ、お祝いの雰囲気になるのも、マレーシアならではの面白さの一つでした。

コタキナバル日本人学校には、小学1年生から中学3年生まで20名程度が在籍しています。小人数だからこそ、児童生徒・教職員が家族のような関係で、学年の垣根を越えて学び合っています。

今年度は「発信力」というテーマのもと、「HUSTLE! 発する!」を合言葉に様々な活動に取り組みました。中でも現地校交流では、4校の現地校と交流し、マレーシアの文化を教えてもらったり、日本文化を発信したりしました。始めのころは、緊張や言葉が伝わらない不安から、積極的に関わることができなかった子どもたちでしたが、回数を積み重ねていくうちに緊張がほぐれ、学習した英語やマレー語、ジェスチャーを使いながら、自ら関わろうとする姿が見られるようになっていきました。交流会後、子どもたちは必ず「楽しかった〜!」と話します。国や文化、言語の違う人たちと、楽しい時間を共有できた経験はきっと、子どもたちにとって大きな財産になると思っています。

マレーシアでは日本のアニメが大人気で、「日本が好き!」と話してくれる人がたくさんいました。日本の魅力をどんどん広めていくとともに、マレーシアの魅力も発信できるよう、今後も子どもたちと共に頑張っていきたいと思います。



エメラルドグリーン海 (サビ島)



世界自然遺産のキナバル山



折り紙と一緒に手裏剣を作りました



マレーシアの伝統的な遊び (チョンカ)

復帰後の不安解消！

「産育休中教職員セミナー」

1月23日(木)10:00～ オンライン 参加者27名

パネリストのお話を聞いて、何とかやっていけそう…と、気持ちが軽くなりました。

先輩ママの家事の早わざが面白く、参考になりました。

復帰後、子どもも自分も笑顔でいられるといいです。





Afternoon Seminar

平日16時から、オンラインで今日的な課題に対する様々な情報を発信しています。毎回、テーマに造詣の深い識者や現場の先生方をお招きし、実践をお聞きしたりゲストの先生よりご示唆をいただいたりしています。柔らかなカジュアルなセミナーになっています。個人、グループ、全職員での視聴等、様々な形での参加が可能です。お気軽にご参加ください。令和6年度は、次のようなテーマを取り上げて行いました。

第1回	5/28 (火)	授業研究の魅力を探る！～授業研究をもっと楽しく、アクティブに～
第2回	6/27 (木)	問いを探す 問いをつくる～哲学を身近に～
第3回	7/19 (金)	自らの命を守り、地域を守る～防災教育を見直してみませんか～
第4回	9/12 (木)	アンラーンとコーチング～これからの教師のあり方がここにある～
第5回	10/8 (火)	これからのPTA活動を考える～子どもと大人、それぞれの笑顔のために～
第6回	12/12 (木)	歴史を学ぶことは 未来を考えること～「秘伝『信州教育の極意』」発刊記念～
第7回	1/28 (火)	「子どもが自ら学び、育つ」とは？ ～県外研究先進校への視察報告から、若い教員の視点で学校づくりを考える～
第8回	2/21 (金)	「個別最適な学び」と「協働的な学び」～ICT研究調査委員の視察報告をもとに～

来年度も実施予定です。開催日、テーマ等はその都度、ホームページ、SNS等でご案内します。

■ 信州教師塾Aについて

1 令和6年度実施報告

今年度の信州教師塾Aは、5月25日の第1回を皮切りに、計4回開催いたしました。また、450名を超える参加者があり大変好評をいただきました。

<参加者の感想>

- ・長野県の教師の魅力や特徴を理解することができました。また、小論文の書き方も参考になりました。
- ・教師として実際に働く姿を想像しながら教員採用試験対策に活かすことのできる情報をいただきました。
- ・二次選考に対して不安が強くありましたが、講座を受けたことで不安が軽減されました。

2 令和7年度実施計画

来年度は、中农信地区の講師や大学生が参加しやすいように、第1回と第2回は信濃教育会館と生涯学習センターを会場とし、年3回開催します（第3回は会館のみ）。詳細はホームページでご確認ください。



防災教育セミナー「～能登半島地震、教員はどう対応したのか?～」

令和7年1月31日(金)

於：信州大学教育学部 図書館2F 講義室 会場参加者70名 オンライン参加者57名



信濃教育会防災教育研究調査委員会の実践報告(櫻ヶ岡中学校・長沼小学校)のあと、輪島市立東陽中学校の佐渡友己成先生の「学びを継続するために～震災・水害を乗り越えて～」と題したご講演をいただきました。



参加者の声



地域住民：学校と地域の交流を持ち、共に防災への取組をすることで子どもたちから気付かされるのがたくさんあります。

大 学 生：これから教育に携わっていく立場として「子どもたちが原動力になる」という言葉が深く心に刻まれた。

消防団員：日頃からのコミュニケーションや、ゆるやかなつながりが大切だと言われています。離れた場所ではありますが、お互いに頑張りたいと思いました。「プラス思考も大切」は同感です。

防 災 士：生徒達の言葉の裏側の辛さ、被災しながらも教師として目まぐるしく変わる状況に対応せざるを得ない困難さ、胸に迫りました。自分にできる事は何かもう一度考えてみます。

教 員：学校教育で大切な生きるための知識として日頃の学習(教科)、そしてもう1つ生きるための知恵(減災・防災教育)が大切であると改めて考える機会をあたえていただきありがとうございました。

信濃教育

予告



信濃教育 4月号
テーマ 子ども達が教えてくれたこと

小学校生活最後の運動会、最後の夏休み、最後の・・・最後が続く六年二期九月に、六年間を振り返ってみました。楽しかった思い出、忘れられない思い出、六年間の思い出。そして、「小学校六年間の思い出を絵にも残したい」という気持ちから、「思い出のいつばいつまったランドセル」を小学校でしか使用しない赤白帽子と共に描きました。六年間通い続けた小学校の教室で、自分の机の上にランドセルと赤白帽子

を置いて見つめます。「友だちとは違う形のランドセル。毎日開け閉めした金具。体の成長に合わせて調節した肩掛け部分。表面の傷や汚れの一つ一つにも愛着が・・・」多くの木々に囲まれた山王小学校。教室外の木々の木漏れ日が優しくランドセルに当たります。そんな光による色の変化もよく見て、一筆一筆色を置くように描き進め、心のこもった作品に仕上がりました。

指導者
西澤しのぶ(吉田小学校)

100年館の絵

令和5年度 永年保存作品
今を生きる子どもの絵



「小学校生活の仲間」
藤原 沙帆(山王小6年)

信濃教育博物館所蔵

「信濃教育会報」カラー版は信濃教育会ホームページの「会員のページ」でご覧いただけます。



公益社団法人
信濃教育会

〒380-0846 長野市旭町 1098 TEL 026(232)2470
URL <https://shinkyō.or.jp> ✉ shinkyō@shinkyō.or.jp
編集兼発行人/大日方貞一

